



食包協会報第 184号 (2024年10月号) ご案内

平素は「食包協会報」をご愛読いただきまして誠にありがとうございます。この度184号(2024年10月号)を公開いたしました。今号では『物流』をテーマに3編の記事を掲載しております。

1つ目の記事では、多摩大学 特別招聘教授の真壁昭夫様に『物流の2024年問題下の取り組み』と題して2024年問題をきっかけに物流業界で起きている変化や共同配送の増加とそれに伴いデジタル化の加速を紹介いただき今後想定される食品包装業界での変化を説明している内容です。

食品包装業界においても企業間で連携していく必要を感じました。

2つ目の記事では、公益財団法人流通経済研究所の農業・物流・地域部門副部門長で上席兼主任研究員の吉間めぐみ様に『物流2024年問題の農林水産業界への影響』と題して2024年問題が農林水産業界に与えた3つの影響(①物流費の値上げ②輸配送ルート削減や消滅、集配ルート削減や消滅による産地消滅の危機③着日遅れ)の説明と今後の対応策(サプライチェーン上の温度管理など)を説明している内容です。

物流の問題が産地の消滅に繋がり、その解決のために農林水産業に関わる全てのサプライチェーンが取り組む必要があることを理解することが出来ました。

3つ目の記事では、神戸大学 海事科学研究科 附属国際海事研究センター 准教授 流通・物流システム科学研究部門 部門長の秋田直也様に『物流の生産性向上の鍵を握る包装研究の視点』と題して所属されている研究センターの紹介や現在の物流に於けるトラックの積載効率の低下とその解決に向けた物流標準化などの事例(パレットやコンテナの規格統一化等)を紹介や市場拡大しているEC市場における包装の課題やその解決案などを説明している内容です。

包装の観点から物流の生産性に寄与できるということを理解することが出来ました。

弊協会では、公平・中立の原則のもと、どのような企画をすれば皆様に関心を持っていただけるかといったことを常に問いながら、これからも魅力ある記事の発信に努めていきたいと考えております。引き続きよろしくお祈り申し上げます。

最後になりましたが、ご多用のところ執筆を快くお引き受けて下さいました真壁様、吉間様、秋田様に心から厚く御礼申し上げます。

2024年11月5日

広報活動委員会委員 笹生 勝也